



# ふるさとのお話

## ニイハオ 你好



嘉興市



△陳山原油埠頭

### 平 湖 乍 浦

嘉興市の東南、平湖県の乍浦は、海に面した戦略上重要な街として古くから有名でした。歴史書によると、日本、ベトナム、シャム、ジャワ、ルソンやブルネイからの商船が、かつては多数この地に寄港したことがわかります。

1911年の辛亥革命後、孫中山氏は、自著「建国方略」の中で乍浦について次のことを指摘しました。「乍浦は、奥部の山（離山）から外海まで数100フィートの距離があり、深さは干潮時でも平均36～42フィート、最大級の船がいつでも停泊できる。中国の中央部海岸では、上海よりもすばらしい港にすることができるだろう」と。

近年になって嘉興市政府当局は、乍浦について専門家による2、3回の調査を行い、大規模な港ができる確証を得ました。そして、1万トンクラスの埠頭建設という大型プロジェクトの開始が決定されています。

かくて、孫中山氏が考えた「東方大港」という大なる構想は、現実のものとなりつつあります。



鈴木喜作さん (91歳)

### 駅北柚木の

## 柚木神社

富士駅北地区、柚木と浦町の境あたりに、柚木神社があります。近くの旧家、牧田家に伝わる古文書によると、この神社は治安二年（一〇二二年）創建、柚木という地名の由来となった神社だと書かれています。

### 大きなユズの木

昔々、千年ほど昔、柚木村のあたりが、まだ富士川の河原だったころの話です。

ある年、大水が出て甲州（山梨県）の方から、一本のユズの木が柚木村へ流れてきました。ユズの木はそこにそのまま根づいて、だんだんに大きくなりました。どうとう、回りが三抱え、高さは五丈八尺（約十七尺）、枝は五十歩四方に広がるまでになりました。その上、この大木の周りには、ユズの木が千本も自然に生えてきて、林になってしまったそうです。生命力の強いこのユズの木に対して、村の人々は、

「不思議なユズの木だなあ。きっと神様が宿っているに違いない」と、柚木神社を建ててあげていました。

### ユズの葉の霊験

そのころ、国中に大地震が起こ

### 地名になった柚木神社

近くに住む鈴木喜作さん（九十一歳）は、「昔から、ユズの木が枯れると新しく植えて、ユズを絶やさないようにしてきたんじやないかな。病気になるようなう、お米がたくさんとれるようになって、毎年九月九日にお祭りをやっているよ。柚木という地名は、柚木神社からきているんだよ」と話してくれました。

### 地名の由来

津田 (吉原地区)



△建設中の救急医療センター

この村は荒田島村の新田でしたが、寛文十年（一六七〇年）の検地で、荒田島村より石高が多いということ、後に独立して「津田村」となりました。独立の時期は明らかではありません。

「津」とは船の着く港ということですから、港の近くの田という意味で「津田村」としたのかもしれない。明治二十二年荒田島村や青島村などとともに合併して島田村になりました。

### こちら編集室

さて、いよいよ忘年会のシーズン。忘年会は一年の苦勞を忘れる一種のみそぎなのでしようが、回数が重なり過ぎると苦勞を忘れるどころか、苦しむ羽目に。飲み過ぎシールを二重三重に張られないよう御注意を。もちろん飲酒運転は絶対に禁物。みんなで明るいお正月を迎えましょう。